

要旨

I.研究目的

本研究の目的は、母乳外来において助産師がどのようなコミュニケーション・スキルを用いて母親のニーズを捉え、支援を行っているのか、その支援のプロセスを明らかにすることである。

II.研究方法

本研究は、母乳外来でケアを実践する助産師への半構造的面接法により、母乳外来での支援について分析した、質的記述的研究である。研究協力者は、病院、診療所、または助産所に勤める母乳外来経験年数3年以上の助産師6名とした。

III.研究結果

助産師が母乳外来で行う母親のニーズを捉えた支援として、【意向を聞き母親を知る】、【自分で原因に気づく過程を支える】、【問題解決に向けて共に考える】の3つが抽出された。これらは3段階のカウンセリング・プロセスであった。このプロセスは、助産師により母親主導型と助産師主導型のプロセスが存在した。母親主導型はさらに1.完全寄り添い型と2.ヒント投げかけ型の2つの型に分けられた。

またそれぞれのプロセスを構成する合計10の要素、そのプロセスで用いられている合計24個のコミュニケーション・スキルが抽出された。

助産師は、プロセス全体を通してエモーショナル・サポートを行っていた。抽出されたエモーショナル・サポートは、言語的コミュニケーション4項目、非言語的コミュニケーション1項目の計5項目で、それは計18個のコミュニケーション・スキルで構成されていた。

IV.結論

助産師は母乳外来において、母親へのエモーショナル・サポートを基盤とした3段階のカウンセリング・プロセスを展開していた。助産師は各プロセスにおいて、母親が自分で原因に気づき、問題解決に向けて考えられるように多様な言語的・非言語的コミュニケーション・スキルを用いてニーズをとらえた支援を行っていた。